

議員カフェに 34 人 フリートークで活発な意見！



まちづくりについて、
多様な意見が出された議員カフェ

妹背牛町議会は8月30日、町内中心部のわかち愛もせうしひろばで、町民の皆様と意見を交わす「議員カフェ」を初めて開きました。

町民参加の開かれた議会を目指す、議会改革に向けた取り組み。カフェの冒頭、廣田毅議長が「まちづくりに関する貴重なご意見をいただければ」とあいさつしました。

出入り自由のフリートーク形式で開かれたカフェには、町民34人と議員9人が参加。和やかな雰囲気の中、2つのグループ

に分かれて町の現状や課題について話し合いました。

参加者たちからは

「町のアピールポイントを増やし、通過する車の流れをどのように変えていけば良いか」「商店街のお店やイベントの情報発信を強化するためには」「旧妹背牛商業高校の跡地の活用方法はないか」などと、活発な意見が出されました。

このほかに、妹背牛温泉ペルの経営状況や小中学校の建て替え、町内会の運営・体制などをテーマにした意見も。

町議会は今後も議員カフェを開催する予定で、町民の皆様の声を町政に届ける考えです。

地域おこし協力隊通信

妹背牛町に在籍する地域おこし協力隊員の活動状況などを紹介します。

竹島 明弘 さん 実千嘉 さん 夫妻



妹背牛温泉ペル前でピッツアを販売する
竹島さん夫妻

妹背牛町の皆様、こんにちは！令和7年6月より妹背牛町の地域おこし協力隊に就任し、町内外で活動しております竹島明弘と申します。1991年3月に留萌市で生まれ、高校卒業後は札幌でサラリーマンを経験。その後、飲食店に転職し、ピッツァイオーロ（ピッツァ職人）として8年ほど働きました。兵庫県神戸市に移住後は、カフェダイニングの立ち上げやピッツァ職人の育成などを行っていました。北海道に戻ってきてからは、「ビアンカネーヴェ」の屋号で、キッチンカーを使ったナポリピッツァの移動販売をしています。

現在、地域おこし協力隊の活動としては、妹背牛町産のバジルや野菜

を使ったピッツアを販売しているほか、妹背牛町のパンフレットをキッチンカーの店頭に置いたり、SNSを活用したPR活動をしています。今後は、妹背牛町内にお店を構えることを目標にしています。

妹背牛町の皆様、こんにちは！妻の実千嘉と申します。生まれ育った妹背牛町に戻り、今年3歳になった双子の姉弟を育てながら、ピッツアを焼いている夫の営業をサポートしています。

お店は、気軽に立ち寄れるカフェを予定していますが、お酒の提供も考えています。

お米を作ったメニューやピッツアの開発など、私たちの中でイメージは山ほどありますが、町民の方々の理想も聞かせていただけたらと思っています。

私たちの水色のキッチンカーを見かけたら、ぜひお声かけください。



町外で営業する際は、妹背牛町のイベントポスターなどを掲示してPRに一役買っています。